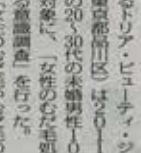

現代女子論

第4講 むだ毛

ノースリーブに、ミニスカートから伸びる生脚――。暑さが増し女性たちが薄着になっていくこの季節、おしゃれを楽しみたい女子には通過しなければならない儀式がある。それは「むだ毛」の処理。なぜ女子はむだ毛を処理するのだろう。【倉田陶子】

闘いの歴史 ああ、うんざり

サロンでは美容ライト脱毛専用の保護めがねや機械がそろい、プロのエステティシャンに脱毛をしてもらうことができる
＝東京都渋谷区で9日午後(撮影協力:エステティックTBC)

「初回お試し1000円!」など、電車内やテレビCMでエステサロンの脱毛の広告をよく目にする。

大阪市内に住む会社員、田島佳子さん(30)は2年前、気軽な気持ちで脱毛サロンを訪れた。「この先死ぬまで、ずっと脇毛の処理をし続けなければいけないと思うと、うんざりしちゃった」というのが理由だった。

初めて脇毛の処理をしたのは中学1年生ぐらいの時。それから15年以上、かみそりでそったり、毛抜きで抜く自己処理❶を続けていたが、面倒だと感じていた。女性誌でよく見かける「処理中の姿を彼氏には絶対に見せられない」という言葉に共感する気持ちもあり、2年前の5月、脱毛サロンで脇の永久脱毛をした。

今ではつるつる、すべすべの脇を手に入れ、「ものすごく楽ですよ」とちょっと自慢げだ。処理後は気楽にキャミソールやノースリーブなどの服を着られるようになった。「脇毛の処理に費やしてきた時間がもったいない。もっと早く永久脱毛をしておけばよかった」と笑顔で話した。

「つるつる、すべすべでなければならない」というのは強迫観念のような気もするが、男性陣は女性のむだ毛をどのように見ているのだろう。

家庭用レーザー脱毛器などを販売するドリアン・ビューティ・ジャパン(東京都品川区)は2011年、全国の20～30代の未婚男性1000人を対象に、「女性のむだ毛処理に関する意識調査」を行った。

「女性のむだ毛やむだ毛の処理跡が気になる」と回答した男性は82%もいた。さらに、「女性はこのむだ毛を処理した方がいい」と男性たちが思う部分は、脇、口周り、腕、脚、ビキニライン❷などの定番箇所のほか、指や背中、胸、おなかなど、細かい部分も指摘されていた。

男たちは女性のむだ毛を意外と細かく見ている。これでは女性がむだ毛処理に躍起になるのも仕方ない。

脱毛の歴史は古い。紀元前4000～3000年ごろには、地中海地方や古代オリエントで脱毛剤が使用されていた。エジプトの女王クレオパトラは、当時流行していた脱毛剤を使ってむだ毛を処理していた。日本でも平安や江戸時代から脱毛の歴史は続いている❸。

「むだ毛をなくしたい」という女性のニーズに応じるように、脱毛方法は進化を遂げた。1875年に米国の眼科医が逆さまつげの治療法として、直流電流を用いた永久脱毛方法を考案。20世紀に入ってからは高周波やレーザーを使った脱毛器が欧米で次々と開発されていった。

日本に脱毛器が輸入されたのは1970年代。78年3月、脱毛専門のエステティックサロンとして創業したTBC(東京都新宿区)の広報室小黒幸みどりさんは、「当時は毛深いことに悩む女性が、九州や北海道から通ってきたそうです」と話す。脱毛のCMや広告が頻繁に目に留まる現在とは違い、当時はまだ「脱毛はひそかに」という風潮だった。

現在、TBCでは美容電気脱毛と美容ライト脱毛❹の2種類の脱毛方法を選択でき、両方を組み合わせた処理方法もある。

今年はビキニラインをはじめとしたアンダーヘアの処理への関心も高いらしい。「10代、20代の女の子たちは、普通に友達同士でビキニラインの話をしていますよ」と小黒さん。

そういえば、米国の人気ドラマ「セックス・アンド・ザ・シティ」がきっかけで話題になったブラジリアンワックス❺がはやり始めたのも数年前。欧米では当たり前だというアンダーヘアの処理が日本でも当たり前になってきたということか。

ただし、レーザーによるやけどやワックスによるかぶれなど、トラブルがあるのも事実。安全性や衛生面へ配慮したサロン選びが大切だ。

放っておけば自然に生えてくる毛を、「むだ」と捉えるかどうかはその人次第だが、「きれいに見られたい」「かわいい服を着たい」という思いからむだ毛を処理し、むだ毛と闘う女性たちを見て、「私も頑張ろう」と勇気をもらった気がした。

むだ毛用語の基礎知識

▼❶自己処理

カミソリでそる、毛抜きで一本一本抜く、ワックスで抜くなど、むだ毛を自分で処理すること。手軽にできるというメリットがある一方、肌への刺激があり、毛穴の炎症を招くなどのデメリットもある。一時的な脱毛なので処理をし続けなければならない。

▼❷ビキニライン(Bikini line)

アンダーヘアが生えていて、ビキニタイプの下着や水着では隠れない部分。多くの女性が処理に気を使っている。Tバックなどの下着を着用する人が増え、脱毛する場所によって「Vライン」「Iライン」「Oライン」といった呼び名も一般的になっている。

▼❸日本の脱毛の歴史

平安時代には、貴族の女性たちが眉の形を整えるために余分な毛を抜き、足りない部分を墨で描き足していた。枕草子には「ありがたきもの(めったにないもの)」として、「毛のよく抜くる銀の毛抜き」が登場する。

江戸時代になると遊女たちが、アンダーヘアを平たくて小さい軽石を使ってこすり切ったり、線香で焼いて処理していた。手足には木の実からとった油と砕いて粉にした軽石を混ぜた脱毛剤が使われた。また、毛抜きで眉毛の形を整える女性の姿が浮世絵に描かれるなど、一般の女性の間にも脱毛が広がった。

●脱毛用のワックス、シェーバーなど自己処理のための品も豊富だ＝東急ハンズ梅田店で●脱毛器(左)とシェーバー

▼❹美容電気脱毛と美容ライト脱毛

美容電気脱毛は一本一本の毛に微弱な電流を流して毛を処理する方法。生えているすべての毛を処理することができ、毛の生え変わる時期に合わせて処理すれば1年～1年半で処理は終了する。米国の政府機関FDA(食品医薬品局)はその安全性と有効性から「パーマネント・ヘア・リムーバル＝永久脱毛」と認めている。

美容ライト脱毛は、毛の黒色に反応する光を当てて処理する方法。短時間で広範囲の毛を処理できる。毛の再生機能を低下させるので抑毛や減毛の効果があるが、永久脱毛ではない。白髪や細い毛には光が反応しないので、処理できないこともある。

ライト脱毛で生えてくる毛を減らしたうえで、残っている毛だけを電気脱毛で処理するなど、組み合わせて処理することもできる。

▼❺ブラジリアンワックス(Brazilian Wax)

ワックスを使ってアンダーヘアをすべて除去する脱毛方法。Tバック発祥国とされるブラジルが語源という説がある。ドラマ「セックス・アンド・ザ・シティ」では、主人公の女性がブラジリアンワックスを体験するシーンなどが描かれた。

補講 日本スキン・エステティック協会理事 手塚圭子さん

肌の露出 増加につれ

脱毛の歴史は古く、紀元前までさかのぼります。処理方法こそ違いますが、「肌をきれいに見せたい」「むだな毛は取ってなくしたい」という思いは、いつの時代も女性にとって切実かもしれません。

日本女性のむだ毛に対する意識の変遷は、ファッションの変化に大きな影響を受けていると思います。着物を着ていれば肌の露出は少ないけれど、洋服を着るようになると、それまで人目につかなかった手足の毛が気になってくる、というわけです。

脱毛サロンがなかったころ、女性たちはお風呂場など人目につかない所でむだ毛の処理をしていました。しかし、時代の流れとともに、女性の脱毛は当たり前になり、ビジネスとしても花盛りといった印象ですね。一年を通して肌を露出するファッションが増え、「スキンケアをするようにむだ毛の処理をする」という若い方が増えています。

むだ毛の処理が一般的になったために、カミソリや脱毛器などで自己処理をする方も多いですが、きちんとした知識がないと毛穴の炎症などトラブルのもと。プロに相談して自分に合った処理方法を見つけてほしいですね。【聞き手・倉田陶子】

てづか・けいこ 静岡市生まれ。医学博士。日本皮膚科学会など所属。美容に関する講演など数多くこなす。著書に「キレイのきほん」(大和出版)など。

次回「現代女子論」は8月9日です。